

# 令和3年度の事業報告書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

特定非営利活動法人やまがた育児サークルランド

## 1 事業の成果

令和3年度事業について、定款の項目に従い成果を総括すると次のようである。

### ① 育児サークルや育児支援サークルの支援とネットワーク化事業(定款第5条(1))

平成29年度よりべにっこひろばの地域支援活動として5年目となり、育児サークルの実情に合わせた支援を行った。「親子遊び」や「交流」中心の自主運営登録育児サークルは年々減少してきており、令和3年度は5サークルとなった時期があった。また、コロナ禍で活動拠点の会場が使用できなかつたり、メンバー募集も難しかった。そこで休止中のサークルの再開のため、活動と場所の支援を行い活動しているサークル数は7サークルとなった。平成30年度から取り組んだ活動場所の支援は令和2年度は実績が無かったが、令和3年度は場所の提供とともに活動も支援し、メンバー募集を兼ねて実施したところ利用が増え194名が参加した。サークル交流研修会はあわせて5回開催、74名が参加した。サークル訪問は1回のみだった。平成27年から活動する「プレイセンターべにっこ」は、コロナ禍による活動の制限はあるものの、参加者を中心に計画した活動を実施することができた(べにっこひろば及び山形市べにっこひろば子育て支援センター管理運営業務、以下べにっこひろばと表記)。

サークル的機能「親同士のつながり」を作る「赤ちゃんと一緒に(BPプログラム、全4回)」は、平成27年度から子育てランドあ〜べで通年開催し、2〜5か月児の母子の仲間づくりをしてきた。令和2年度は感染症流行のため閉鎖期間があったが、令和3年度は閉鎖こそないものの外出控えの影響で10期計画し5期開催となった(子育て支援施設子育てランド運営業務、以下子育てランドあ〜べと表記)。子育てでつながる家いろはでは4期計画し2期開催した(子育てでつながる家いろは(長井市子育て支援センター)運営業務委託、以下いろはと表記)。

育児支援サークルの支援では、各拠点とも学生やボランティアを慎重に受け入れた。べにっこひろばでは、子どもたちとダンスを楽しむボランティアグループ「くりえいたーず」が月1〜2回程度活動し、合計10回、402名が参加した。地域では、山形市大曾根コミュニティセンターにて乳幼児対象の運動会を予定していたが中止となった。

シニア層が子育て支援活動に参画できるよう、山形市でシニア層対象の研修会を開催し、15名が参加した。このうち5名が子育て支援拠点見学につながった。アンケート調査に伴い、子育て支援団体113団体、令和2年度、3年度の講座受講者99名に地域の子育て支援活動の情報を提供し働きかけた(やまがた他孫(たまご)育て支援事業)。

育児中の親が共通のテーマのもとに集まるサークルや趣味のサークルとの関わりは復活させることができなかった。保育士資格取得準備サークルは保育士試験に向けて23回開催したが参加者がいない時期があり、のべ6名にとどまった(子育てランドあ〜べ)。

「子ども食堂」の活動では、シングルマザーと東日本大震災避難家庭対象としカフェを活用して行った。公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン「社会的脆弱性の高い子どもの支援強化事業」の助成金と赤い羽根共同募金の助成金を得て、1,331食を提供した。なお、セーブザチルドレン・ジャパン助成期間令和2年11月〜令和3年10月末までの1年間の食事提供総数は1,302食となった(親子を支援につなぐひとり親家庭の食の支援事業)。

育児支援のネットワーク活動は、「村山地域みんなで子育て応援団」において当法人が会長になって協議会時代から通算11年となった。置賜地区の応援団は、置賜担当スタッフが参画し会長を務め、ネ

ットワークでの活動を継続した（自主事業、地域子育て支援）。

## ② 保育事業(定款第5条(2))

保育事業は、講座・催し物の臨時託児室運営は49件、うち山形市レディース健診は16件であった。申し込みは76件と増え、例年程度に回復した。感染症関連では、山形県よりワクチン接種会場の託児室開設依頼があった。これまで通り、衛生管理、主催者との調整、保育者の育成など、保護者が安心して子どもを託すことができるように努めた。チーフミーティングは書面で情報を共有した。3名がスタッフ研修として実習に取り組んだ（自主事業、保育事業）。

マザーズジョブサポート山形内「保育ルームにこここ」は、1日平均利用子ども数1.3人と令和2年度の1.6人をさらに下回った。感染症対策で子ども連れでの外出や求職活動そのものを控えたためと考えられるため、引き続き感染症対策を徹底し保育した。

自主事業の会員制の預かり活動「子育てサポート応援団」は会員143名で活動した。活動件数は29年度321件、平成30年442件、平成31年度276件、令和2年度178件、令和3年度は206件だった。

年度当初から山形市のファミリー・サポート・センターを受託し、協力会員83名で前年比+8名、利用会員482名前年比△16名、活動件数は1,055件で前年比+504件となった。新しい事業であり、会員の状況を把握しながら援助活動をサポートした(山形ファミリー・サポート・センター運營業務)。

平成25年度から受託した山辺・中山ファミリー・サポート・センター事業は、周知広報や両町の利用者への補助金の効果で平成27年度40件から、28年度216件、29年度300件、30年度は244件と推移した。しかし、31年度は43件、令和2年度14件と減少し、令和3年度は5件と開設当初のような一桁台となった(山辺・中山ファミリー・サポート・センター事業)。

「子育てランドあ〜べ」の一時預かりは、利用者数が1,713名と、令和2年度の1,342名を3割上回った。コロナ禍ではあったが、一時預かりを必要とする親子のニーズに応えることができた(子育てランドあ〜べ)。

平成26年度から受託した「山形大学小白川キャンパス保育所」は、のびのび、つぼみの合計で、年度始め24名から年度末29名と増加した。令和2年度に引き続き大学と連携し感染予防を徹底しながら運営し、保育参観など保護者支援を工夫して行った。オンライン研修を活用し、職員が同じ研修を受け成果があった。中途退職者があったが、コロナ禍の中で求職者の活動が停滞しており、職員確保は法人全体の課題ともなった。保護者に評価され、0歳児から入所している4歳児が3名継続することになった。(山形大学小白川キャンパス保育所運營業務)。

## ③ 育児や育児中の生活に関する情報収集と提供事業(定款第5条(3))

会議やミーティングなどでオンラインを活用することが増え、紙媒体での広報からインターネットを活用した広報を模索した。

令和元年度リニューアルした法人のホームページ、団体案内のパンフレット(A4カラー、8ページ)、リーフレット(A4両面、カラー、三つ折り)を活用するほか、年3回会員向けのニュースレターを作成し、協力会員等の法人・個人へ送付し、サークルランドの現在の状況を会員の皆さんに知ってもらうことができた。

「子育てランドあ〜べ」では、情報紙「あべあべ!あ〜べ!」(毎月25日発行)を、1800部発行し、育児サークルや支援センターなど149か所に配布した。また、LINEを月1回発信しホームページにリンクさせ、あ〜べの情報を提供した。

「べにっこひろば」では、べにっこひろばだよりを月1回、200〜500部発行した。広報やまがたは月2回掲載していたが、感染症の流行でイベント周知不可とされ、令和3年度は掲載はなかった。Webでは、山形市のすくすくネットにイベントを月1回告知し、ブログを月3〜8回更新し、安定して情報提供することができた。民間のホームページ「いこーよ」に月1回情報を提供した。

「子育てでつながる家いろは」は毎月のおたより「いろは」を50部発行、Face Bookは月2回情報を発信した。ホームスタートおきたまのビジター向けに、HV通信を2回発行し郵送した。

マザーズジョブサポート山形、同庄内は、開設したホームページにて情報発信した。

東日本大震災における避難家庭支援では、情報紙「ままカフェお知らせ版」を令和4年3月まで毎月375部発行した。

#### ④ 女性や育児中の方々の人材育成に関する事業(定款第5条(4))

人材育成関連では、育児中の親向けの講座、女性の自立に向けての支援活動、地域の子育て支援力の向上のためのボランティア育成研修会、子育て支援の専門的な研修等を継続して行った。

一般向けの研修では、妊娠期からの切れ目ない支援としてママパパ教室を定期開催し2か月に1回(あ〜べ4回、7回)開催した。2〜5か月児と母親対象の「赤ちゃんと一緒にベビープログラム」(2時間×4回)は、あ〜べで5期、いろはで2期実施した。平成19年以来「子育てランドあ〜べ」で実施してきた“高校生のパパママ体験”は令和2年度に引き続き開催できなかった。あ〜べのパソコン講座は15回開催、のべ138名受講した。

育児サークル交流研修会では、山形市男女共同参画センターファーラと協働し、育児サークル支援を図った(再掲)。

女性の自立支援では、『マザーズジョブサポート山形』(平成26年から継続、山形テルサ内)、『マザーズジョブサポート庄内』(平成29年から継続、酒田市中町庁舎内)は令和2年度も継続し受託した。

利用状況は、山形では291日開設、のべ1,194名、一日平均4.1名、うち相談は2.7名と令和2年度の約8割であった。感染症流行でセミナーの定員は通常時の半数のままとなり、でハローワークのオンライン化で来場する利用者が減少したためと考えられる。「保育ルームにこここ」ものべ174名一日平均1.3名と利用者が減少した。セミナー及び職場見学会は48回、のべ204名が参加した。内容は、自己理解やキャリアの棚卸、将来を見越したお金と働き方、パソコン講座、保育所についての講座、職場見学会、育児休業者向けや転勤族向け、夫婦向けのセミナーも企画した。平成25年度より実施している「保育現場復帰講座」は、11月に5日間とし、実習に替えて保育所の一日を紹介する参加型の講義を開催した。

出張相談は寒河江、村山、長井、米沢の各ハローワーク、子育て支援センターにて25回と回数を減らして行い、セミナー参加は大人32名、見守り保育の子ども16名、出張相談時の個別相談は41名、見守り保育の子どもは43名だった。出張に替えて、オンラインの取組を進め、Zoomを活用する講座を開催したり、オンラインで講座受講や相談ができるようにしたところ、オンラインでの講座受講は20名、相談は12件であった(マザーズジョブサポート山形就労支援及び託児業務)。

マザーズジョブサポート庄内の利用状況は、242日開設、のべ531名、一日平均2.1名、うち相談は1.7名が利用と、感染症流行で利用が減少した令和2年度のさらに8割となった。「保育ルームきらきら」はのべ91名、一日平均0.6名とコロナ禍前の30年度と比較すると半減した。セミナーは山形に準じた内容で、27回開催のべ90名が参加した。オンラインでは、自宅が遠方、託児が利用できない月齢の子を持つ保護者など4名が参加した。出張相談は鶴岡、新庄の各ハローワーク、子育て支援センターにて令和2年度より1回多い19回行い、セミナー参加は大人20名、見守り保育の子ども13名だった。出張相談時の個別相談は30名、見守り保育の子どもは31名であった(マザーズジョブサポート庄内就労支援及び託児業務、特定非営利活動法人にこっとと共同企業体を組織し受託)。

ボランティア育成では、「子育て支援者養成講座」を2回開催し各地で子育て支援者の育成を図った(山形市7月は山形ファミリー・サポート・センター運營業務、10〜11月山辺町は山辺町・中山町からの委託で、修了者は山形市会場13名、山辺町会場5名の合計18名であった。「ホームスタートビジター養成講座」は山形市では令和4年度から自主事業となったため実施を見送った。長井市では6月に開催し3名が修了、長井市のビジターが増えた。ビジター数は「ホームスタートやまがた」77名、「ホーム

スタートおきたま」17名となった。

震災関連では、宮城、山形、福島、新潟各県の支援者を対象に、研修交流会を2回オンラインで開催した。7月は講演「避難者支援において心の健康を維持するためにできること」を明治学院大学教授杉山恵理子氏を講師に開催し43名が受講した。12月には「気になる家庭への対応～支援者自身の傾向を振り返り、対応困難につながるメカニズムを理解する～」と題し、42名が参加した。講師の杉山恵子先生は平成29年から7回講師として指導していただき、こちらの状況を踏まえスタッフと何度もやり取りした上で開催しており、令和3年度も満足度が大変高い研修となった。視察や活動報告は行わなかった(やまがた・ふくしま子育て支援交流事業)。

家庭的保育者(保育ママ)関連の研修は、23年度から毎年継続して山形市から受託している。令和3年度は2年度に引き続き現任研修で、1、2日目を原則オンライン、3日目を人数を制限したうえで対面での研修とした。参加者はのべ57名だった(山形市家庭的保育者現任研修)。

子育て支援員研修は29年度から地域支援コース、利用者支援(基本型)を継続で受託してきたが、令和3年度は地域支援コース、地域子育て支援拠点の研修を受託した。11月に山形市、三川町の2地域で開催し、29名が修了した(山形県子育て支援員研修事業、地域子育て支援)。

#### ⑤ 調査提言事業(定款第5条(5))

令和2年度に引き続き、シニア層のボランティアについて、講座受講者99名、受入れ側の子育て支援団体等113か所を対象にアンケート調査を行った。受講者64名、団体等62か所から回答があった。結果について「令和3年度山形県シニア層子育てボランティアに関する意識調査」として報告書を作成した。

令和3年度も令和2年度とおおむね同様の結果が得られた。コロナ禍での親子の変化については、親子同士やスタッフ、ボランティアとの交流の場の減少、子育てをしている親子の孤立への心配の記述が多かった。ボランティアを受け入れた団体では、世代間交流ができたり子どもが喜んだという良さや、団体として人手が増え、多世代交流ができるなどと評価していた。受けてほしい研修は、「最近の子育てを取り巻く環境」「子どもとの関わり方」「親との関わり方」が多く、今の親子の状況を知り関わってほしいという思いがみられた。With コロナの子育て支援の在り方として、地域の人が支援に関わるために、適切な研修やボランティアコーディネートが必要だと考えられる。

講座の受講者については、親子への理解が深まり、親子を見守ったり子育て情報を収集するなどしており、講座受講の効果が確認された(やまがた他孫(たまご)育て支援事業)。

ホームスタートジャパンのシステムQISSに基づき全国での統計にデータを提供した(自主事業ホームスタートやまがた、おきたま)。べにっこひろばでは、来館者対象に随時アンケートを行い、運営に活かした(べにっこひろば)。

#### ⑥ 育児支援の様々な事業に対するマネジメント支援及びコンサルティング事業(定款第5条(6))

村山地域の子育てNPOと市町村によるネットワーク「村山地域みんなで子育て応援団」では、書面開催やオンライン研修を行った。研修は東京や九州の講師とオンラインで結び学びあうことができたが、団体同士の交流や市町村など行政機関との連携は限定的なものとなった。

市内外からの見学、視察や研修の受け入れは、大学生の実習を除いてほとんどなかった。

#### ⑦ 子育て支援施設の運営事業(定款第5条(7))

令和3年度は8～9月ごろの感染症第5波、1～2月からの第6波の影響を受けた。感染症流行により、出産に関わる支援が受けにくく、子どもを連れて外出しにくい状況になり、子育て家庭の状況は引き続き厳しいものとなった。仕事や経済活動は、With コロナで再開されつつあるが、乳幼児は予防接種の対

象ではなく、マスクの着用や密を避けた行動がとりにくいため、感染症流行の影響を受け続けている現状だ。

みはらしの丘「ミュージアムパークはらっぱ館」は、指定管理事業者と11年目の委託契約を結び、講座事業や育児サークル「マーブル・チョコレート」などの子育て支援事業を継続して開催した。令和2年度に続いて大きなイベントや食に関する催しは中止となったが、企業体のスタッフと協力してコロナ禍でも今できることを一緒に探し講座を進めることができた(蔵王みはらしの丘ミュージアムパークに関わる子育て支援業務)。

「子育てランドあ〜べ」はN-GATEに移転し5年目となった。N-GATEは七日町商店街事務所、2階以上が駐車場で中心市街地活性化の一端を担っている。令和元年1月に大沼デパートが閉店、令和2年から新型コロナウイルス感染症の流行で七日町の商店街や飲食店は影響を受け続けているようだ。あ〜べのおやこ広場は、開館日数295日利用者数は8,252名と、80日間の閉鎖期間があった令和2年度の約5%増にとどまった。各種相談会は237回のべ666名の参加があった。身体測定は継続、お誕生会・「ハーフバースディ」は密を避けるため個別対応とした。講座は研修室の広さを考慮して定員を半分の8名にして開催した。ベビープログラム「赤ちゃんと一緒に」(通称BP)は10期計画したが、開催は5期でのべ272名が参加した。ベビーマッサージは2回開催し参加者は20名であった。

オンラインの活動は妊娠中の人向けのママパパ教室の他、3月には子どもの発達を促す遊びをZoomで配信したところ、個人や子育て支援者が参加し端末数で29だった。保育士資格取得準備サークルは継続し1名が合格したが、新規の参加者を得ることができなかった。シンシンの会(シングルマザーの交流会)は、ひとり親家庭の収入減に対応し、令和2年度に引き続いて100円でランチやテイクアウトできるようカフェが助成金を活用し支援した。おやこ広場、託児ルームともに消毒、換気などの感染症対策を継続した(子育てランドあ〜べ)。

「べにっこひろば」は平成29年からの指定管理の最終年度であった。次期指定管理者への申請書を9月17日に提出、10月8日のプレゼンテーションを経て、10月21日に候補者に選定され、12月議会で決定、12月21日付で決定通知を得た。次期は令和4年度からの10年間である。

令和2年度に引き続き感染症対策を徹底し運営した。屋内来園者数は例年の5分の1に減った令和2年度48,539名から、71,052名に回復した。利用制限があり、入園時の対応や地域連携・関係機関と連携は難しかったが、状況に合わせてイベントを再開できたいへん好評だった。相談は、令和2年度とほぼ同じくらいの633件で、内容は生活習慣や発達の心配等であった(べにっこひろば)。

長井市の地域子育て支援センターとして3年目の「子育てでつながる家いろは」は、通年開館、利用者は年間162日1,691名と令和2年度より200名ほど増えた。支援が難しいケースに、保育所入所までの約1年間関わった。「助産師さんの日」は9回開催、親子27組63名が参加した。予約制のいろはの日は、令和2年度は22回196名とよく利用されたが、令和3年度は1回のみだった。長井市の3か月児健診、パパママ教室での周知活動はできなかった。「赤ちゃんと一緒に〜ベビープログラム〜」は2期開催、のべ86名、マタニティ★Dayはヨガを中心に3回、12名の参加となった。(いろは)

## ⑧ 子育てに関するイベント事業(定款第5条(8))

山形県男女共同参画センターチェリアの「チェリアフェスティバル」は展示のみで参加した。

「べにっこひろば」では、地域支援に関する業務として様々な団体と連携したイベントが恒例で、感染症の流行が落ち着いている期間に一部再開することができた。

「子育てランドあ〜べ」では、七日町のイベントがほとんどなく、独自のイベントは一週間にわたって同じ内容を開催するなど、参加者が分散する工夫をして実施した。

## ⑨ その他会の目的達成に必要な事業(定款第5条(9))

未就学児のいる子育て家庭への訪問支援「ホームスタート」は山形では自主事業、置賜では地域子育て

て支援拠点事業の加算事業として長井市の委託事業の中で実施した。ホームスタートジャパンの事業がほとんどオンラインとなり、東北・北海道エリア協議会、研修会などに参加することができた。ホームスタートジャパンの推進委員を継続し、情報室、スキームサポート、ファンドレイジングに関して活動した。ホームスタートやまがたは、訪問家庭数は10件、ホームスタートおきたまは2件であった。産前産後の支援活動としての産後のサポートは利用が非常に増えた。里帰り出産ができなくなった人への支援として産後ケアが無料で利用できる「山形市育児等支援サービス事業」は令和2年度途中から受託し4回だったが、令和3年度は92回活動した。山形市産後ケア事業業務(ママサポーター)は、利用できる期間が5か月未満から1歳未満に延長されのべ70回活動した。自主事業では2回活動した。(自主事業妊産婦等の産前産後サポート支援、山形市産後ケア事業業務、山形市育児等支援サービス事業)。

東日本大震災後約11年が経過するなか、避難家庭支援の活動を継続した。

「ままカフェサロン」は子育てランドあ〜べ、Pont tree café、蔵王みはらしの丘ミュージアムパークはらっぱ館を会場に16回開催し、のべ21名が参加した。みはらしの丘「はらっぱ館」での恒例の交流イベント「わくほこ芋煮会」は令和2年度に続いて開催できなかった(山形市委託被災者向けままカフェサロン業務)。

米沢市では、「スペシャルままカフェおしゃべり会」を2回開催し11名が参加した(被災児童の交流会等実施事業)。

山形・福島・新潟・宮城各県の支援者がともに交流研修する事業は平成25年より継続実施し9年目となった。オンラインでの講演、ワークショップを行った(やまがたふくしま子育て支援交流事業)。

Pont tree caféは、コロナ禍での支援活動で、ひとり親家庭の食事支援として1食100円のランチやテイクアウトに取り組んだ。経済的に困難な家庭の支援の入り口となり、子育てランドあ〜べやべにっこひろば、ひとり親家庭のグループへの参加等につながった(セーブザチルドレン助成親子を支援につなぐひとり親家庭食の支援事業、赤い羽根共同募金助成)。

## 2 事業の実施に関する事項

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の実施日時 (B) 当該事業の実施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対象者の範囲 (E) 人数	事業費の金額 (単位：千円)
<b>(1) 育児サークルや育児支援サークルの支援とネットワーク化事業</b>				
育児サークル支援	・相談及び遊具貸し出し ・交流会、研修会の開催 ・活動場所や情報の提供	(A) 令和3年4月1日～ 令和4年3月31日 (B) べにっこひろばほか (C) 3人	(D) 一般市民 (E) 交流研修会74人 活動・場所支援 357人	
<b>(2) 保育事業</b>				
保育事業	・臨時託児室の設置による一時保育	(A) 令和3年4月1日～ 令和4年3月31日 (B) やまがた育児サークルランドほか (C) 1人	(D) 一般市民 (E) 49件 託児数115人	
山形大学小白川キャンパス保育所運営業務	・山形大学の教職員や在籍学生、山形銀行職員及び地域家庭の子どもの保育 2歳児まで＝「つぼみ」 就学前まで＝「のびのび」	(A) 令和3年4月1日～ 令和4年3月31日 (B) 山形大学小白川キャンパス (C) 20人	(D) 関係者及び一般市民 (E) 保育29人 一時預かり7人	
子育てサポート応援団	・育児の援助を受けたいものと研修を受けた育児援助者の組織化 ・研修及び相互援助活動支援	(A) 令和3年4月1日～ 令和4年3月31日 (B) やまがた育児サークルランド (C) 2人	(D) 一般市民 (E) 登録会員 143人	
<b>(3) 育児や育児中の生活に関する情報収集と提供事業</b>				
ひとり親家庭情報交換事業	・相談及び交流会の開催 ・100円ランチの提供	(A) 令和3年4月1日～ 令和4年3月31日 (B) 子育てランド あ～べほか (C) 2人	(D) ひとり親家庭 (E) 144人	
親子を支援につなぐひとり親家庭の職の支援事業 (社会的脆弱性の高い子どもの支援強化事業)	ひとり親家庭や震災自主避難者などの親子を対象 ・食事の提供 ・子育てや子育て支援の情報提供 ・相談対応、他事業へのつなぎ	(A) 令和3年4月1日～ 令和3年10月31日 (B) ポンツリーカフェ (C) 5人	(D) ひとり親家庭など (E) 食事提供数 1,110人	
〃 (赤い羽根事業)	〃	(A) 令和3年11月1日～ 令和4年3月31日 (B) ポンツリーカフェ (C) 5人	(D) 関係者 (E) 食事提供数 221人	
<b>(4) 女性や育児中の方々の人材育成に関する事業</b>				
「村山地域みんな子育て応援団」育休復帰応援講座実施業務	・育休復帰後の仕事と家庭の両立などを考える機会の提供、同じ境遇の母親のつながりによる不安払拭と意欲の醸成のためのセミナー開催	(A) 令和3年8月6日～ 令和3年11月30日 (B) 子育てランド あ～べほか (C) 2人	(D) 一般市民 (E) 講座2回 参加者6人	
「求職者支援訓練保育アシスタント養成科」	・早期就職及び保育人材の育成と確保のための養成科開催	(A) 令和3年4月1日～ 令和4年3月31日 (B) 子育てランド あ～べほか (C) 4人	(D) 一般市民 (E) 1回目参加者 少数で中止 2回目 参加者2人	

<b>(5) 調査・提言事業</b>				
<b>(6) 育児支援の様々な事業に対するマネジメント支援及びコンサルティング事業</b>				
山形ファミリーサポートセンター運営業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の周知と啓発</li> <li>・会員の募集と登録</li> <li>・会員の統括及び相互援助の調整</li> <li>・会員に対する講習会及び会員の交流会の実施</li> </ul>	(A) 令和3年4月1日～令和4年3月31日 (B) やまがた育児サークルランド (C) 3人	(D) 山形市民 (E) 登録会員572人 会員活動1,055件	
山辺町・中山町ファミリーサポートセンター運営業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の周知と啓発</li> <li>・会員の募集と登録</li> <li>・会員の統括及び相互援助の調整</li> <li>・会員に対する講習会及び会員の交流会の実施</li> </ul>	(A) 令和3年4月1日～令和4年3月31日 (B) やまがた育児サークルランドほか (C) 2人	(D) 当該町民 (E) 登録会員167人 会員活動5件	
山形県子育て支援員研修事業（地域子育て支援）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域子育て支援拠点事業の専任職員として従事するために必要な知識や技能を習得するための研修会開催</li> </ul>	(A) 令和3年7月1日～令和4年3月31日 (B) 山形市総合福祉センターほか (C) 1人	(D) 一般市民 (E) 講座2回 参加者29人	
家庭的保育事業現認研修業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭的保育者の資質向上のため必要な知識や技術の習得のための研修会開催</li> </ul>	(A) 令和3年10月1日～令和3年12月28日 (B) 子育てランドあ～べほか (C) 13人	(D) 子育て支援分野に従事する者 (E) 57人	
<b>(7) 子育て支援施設の運営事業</b>				
子育て支援施設子育てランド運営業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子交流事業</li> <li>・一時預かり</li> <li>・人材育成、相談事業ほか</li> </ul>	(A) 令和3年4月1日～令和4年3月31日 (B) 子育てランドあ～べ (C) 26人	(D) 一般市民 (E) 17,475人	
山形市児童遊戯施設「べにっこひろば」等指定管理業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びの場やあそびの提供</li> <li>・子育て支援</li> <li>・相談対応ほか</li> </ul>	(A) 令和3年4月1日～令和4年3月31日 (B) べにっこひろば (C) 35人	(D) 一般市民 (E) 71,052人	
子育てでつながる家いろは（長井市子育て支援センター）運営業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子が交流できる場の提供</li> <li>・相談事業</li> <li>・家庭訪問相談事業ほか</li> </ul>	(A) 令和3年4月1日～令和4年3月31日 (B) 子育てでつながる家いろは (C) 3人	(D) 一般市民 (E) 1,691人	
蔵王みはらしの丘ミュージアムパークに関わる子育て支援業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座イベント開催</li> <li>・育児サークル活動支援</li> <li>・交流の場の提供</li> <li>・情報提供ほか</li> </ul>	(A) 令和3年4月1日～令和4年3月31日 (B) 蔵王みはらしの丘ミュージアムパーク (C) 1人	(D) 一般市民 (E) 263人	
<b>(8) 子育てに関するイベント事業</b>				
被災者向けままカフェサロン業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災に伴い避難を余儀なくされている児童の家庭に対し、心身の相談、講習会の開催によって、情報や交流の機会の提供</li> </ul>	(A) 令和3年4月1日～令和4年3月31日 (B) 子育てランドあ～べほか (C) 3人	(D) 避難家庭 (E) 52人	

やまがた・ふくしま子育て支援交流事業	避難者支援に関わる支援者団体対象 ・情報交換と研修会や交流会の開催 ・支援者のスキルアップ研修会の開催	(A) 令和3年4月1日～令和4年3月31日 (B) 子育てランド あ～べほか (C) 1人	(D) 関係者 避難家庭 (E) 131人	
被災児童の交流会等実施事業	避難者及び帰福者対象 ・交流会や研修会の開催	(A) 令和3年4月1日～令和4年3月31日 (B) 子育てランド あ～べほか (C) 1人	(D) 関係者 避難家庭 (E) 20人	
<b>(9) その他会の目的達成に必要な事業</b>				
山形市産後ケア事業業務(ママサポーター)	妊婦または産後1年未満の心身不調により養育に支障がある方の自宅にママサポーターが訪問し、家事や育児の援助をして負担軽減を図る。	(A) 令和3年4月1日～令和4年3月31日 (B) 各家庭ほか (C) 3人	(D) 一般市民 (E) 70人	
山形市育児等支援サービス事業業務	里帰り出産が困難になった妊婦または産後1年未満の方の自宅にママサポーターが訪問し、安心して産前産後期をすごせるよう家事や育児の援助をして負担軽減を図る。	(A) 令和3年4月1日～令和4年3月31日 (B) 各家庭ほか (C) 3人	(D) 一般市民 (E) 92人	
妊産婦等の産前産後サポート支援	妊娠期・出産期を含めて母親を対象に産前産後サポートを行う。	(A) 令和3年4月1日～令和4年3月31日 (B) 各家庭ほか (C) 3人	(D) 一般市民 (E) 2人	
ホームスタート(先輩ママの家庭訪問支援事業)	身近に支援者がいない家庭、外出が難しい家庭や育児不安を抱える家庭に対して、孤立防止や負担軽減を図るために傾聴、協働を行う。	(A) 令和3年4月1日～令和4年3月31日 (B) 各家庭ほか (C) 2人	(D) 一般市民 (E) 訪問回数 26回	
やまがた他孫(たまご)育て支援事業	活力・意欲あるシニア層の子育て支援活動への参画を促す取り組みを行い、地域の子育て支援活動とシニア層を結びつけることで、子育て支援の裾野を広げ、地域全体で子育てを支える環境づくりを行う。	(A) 令和3年6月25日～令和4年3月18日 (B) 県生涯学習センターほか (C) 1人	(D) 一般市民 (E) 20人	
マザーズジョブサポート山形就労支援及び託児業務	女性の就労支援相談業務、利用者を対象とした就職促進等のための企画の実施、託児業務など	(A) 令和3年4月1日～令和4年3月31日 (B) ハローワークプラザやまがたほか (C) 6人	(D) 一般市民 (E) 相談 1,194人 企画参加者 204人 託児 174人	
マザーズジョブサポート庄内就労支援及び託児業務	女性の就業のワンストップ窓口を開設し、仕事と家庭の両立に関する相談や保育情報の提供、各種セミナーの開催、無料託児サービスの提供。	(A) 令和3年4月1日～令和4年3月31日 (B) 酒田市役所ほか (C) 5人	(D) 一般市民 (E) 相談 531人 企画参加者 90人 託児 91人	